

主 な 内 容	● 抗菌剤・駆虫薬は使用基準を守り、正しく使いましょう	…… 1
	● 豚熱を取り巻く状況について	…… 2
	● 野生いのししにおける豚熱の検査状況	…… 3
	● 飼養衛生管理基準の追加項目について	…… 4
	● 流行前に予防を！ ～牛の感染性下痢～	…… 5
	● 高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生を想定した防疫対応実地訓練を実施しました	…… 6

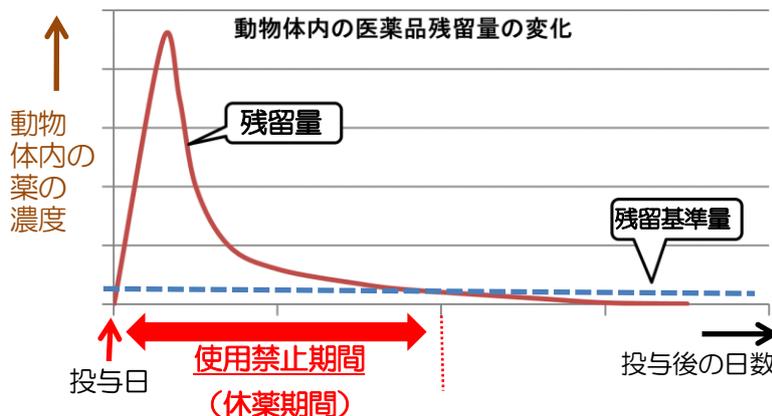
## 抗菌剤・駆虫薬は使用基準を守り、正しく使いましょう

中小家畜課 企画担当

動物用医薬品（抗菌剤、駆虫薬など）は、使い方、使用量、使用禁止期間（休薬期間）などの使用基準を守って使用しなければいけません。

使用基準を守らないと・・・

出荷した乳・肉・卵に医薬品が残留基準値を超えた場合、回収や廃棄の対象となります。



病畜出荷の際は、肝臓や腎臓機能が低下し、休薬期間を過ぎてても、薬が体内に残留する場合がありますので、特に注意しましょう。

### 使用基準の確認と使用の記録

<表示例>  
 動物用医薬品 ○○○○○ (商品名)  
 効能・効果  
 牛： 防虫剤、殺虫剤  
 用法・用量  
 外部寄生虫の寄生の甚しい家畜・家禽に対し直接散布する。  
 注意－使用基準の定めるところにより使用すること  
 牛：食用に供するためにと殺する前○○日間

対象動物

使用禁止期間(休薬期間)

- 医薬品を使用したら、使用記録を付けて保管しましょう。
- 獣医師の発行した動物用医薬品指示書も、一緒に保管しましょう。

# 豚熱を取り巻く状況について

中小家畜課 中家畜担当

## ◆ 全国の豚熱発生状況

平成30年9月に岐阜県で26年ぶりに発生した豚熱は、令和3年も12例の発生が認められています。(直近では10月19日、群馬県での73例目)。豚熱ワクチン接種が開始されてからは、免疫が十分でない離乳舎及び肥育舎で発生しています。

- ◇ ワクチンのみでは十分に免疫を獲得できない豚が一定数存在します。
- ◇ ウイルスの農場への侵入防止措置、特にワクチン接種前の感受性豚が多く存在する離乳豚舎等の措置を一層徹底しましょう！

具体的には…

- 豚舎に出入りする際の、靴や衣服(大臣指定地域)の交換及び手指や一輪車の消毒(飼養衛生管理基準項目25、26、28)
- 豚舎開口部への防鳥ネット等の設置(項目29)
- 健康観察と異常が認められた際の早期通報(項目39)

## ◆ 本県の豚熱ワクチン接種状況

本県では令和3年10月5日までに全養豚農場の初回ワクチン接種が終了しました。今後は、管内では毎月約3万2千頭生産される子豚を対象に月2回の頻度で順次接種するとともに、半年間隔で繁殖豚の補強接種を進めていきます。

〔本県の初回接種実績〕

	接種期間	接種実績
県南地域	7/5~10/5	56農場 193,819頭
県央地域	8/2~9/7	39農場 101,046頭
県北地域	8/23~10/5	40農場 98,745頭
計	7/5~10/5	135農場 393,610頭

## ◆ 豚熱ウイルス免疫付与状況

豚熱の特定指針に基づきワクチン接種農場の免疫付与状況検査を行っています。これは免疫の獲得状況及び接種適期の把握を目的としています。

母豚を飼養する農場が対象で管内32戸のうち検査した30戸中すべての農場が80%以上の抗体陽性率でした。

# 野生いのししにおける豚熱の検査状況

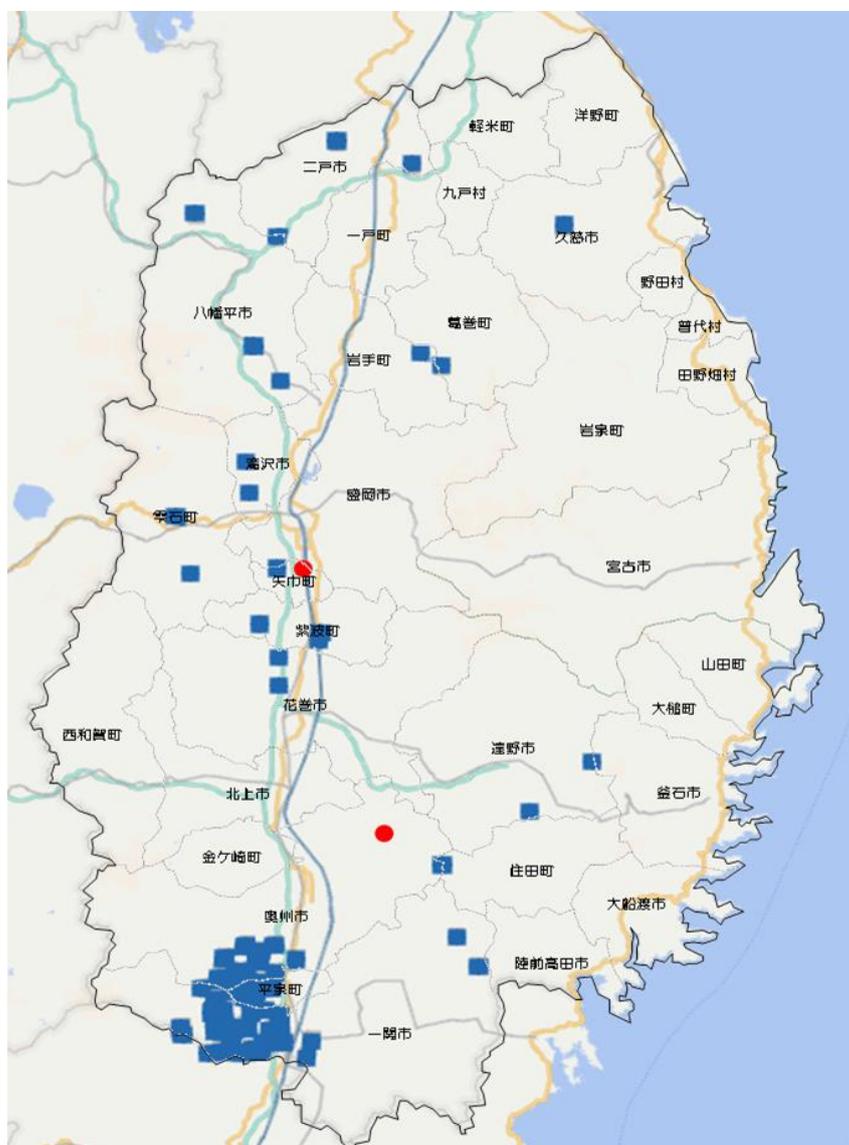
中小家畜課 中家畜担当

令和3年10月20日現在、196頭（うち死亡3頭）の野生いのししを検査し、**全頭の陰性を確認**しました。県南地域が全体の88%を占めています。

（県南地域 173頭、県央地域 20頭、県北地域 3頭）

[管内の市町村別検査状況]

市町村	花巻市	遠野市	一関市	奥州市	平泉町	住田町	計
頭数（捕獲）	2	2	100	55	12	1	172
頭数（死亡）	0	0	0	1	0	0	1
計	2	2	100	56	12	1	173



[東北地方の野生いのししの豚熱の感染状況]

県名	検査数	陽性頭数
宮城県	307頭 (10/14 現在)	<b>31頭</b>
山形県	287頭 (10/6 現在)	<b>18頭</b>
福島県	360頭 (10/13 現在)	<b>29頭</b>

宮城県、山形県及び福島県では野生いのししの豚熱の感染が拡大しています！

図. 岩手県の野生いのししの捕獲地点（■捕獲、●死亡）

**ワクチンの効果を過信せず、引き続き飼養衛生管理基準の遵守の徹底、特に野生動物対策を徹底しましょう！**

# 飼養衛生管理基準の追加項目について

中小家畜課 小家畜担当

令和3年 10 月 1 日に飼養衛生管理基準が一部改正され、家さんの飼養羽数に応じて、新たな内容が追加になりました。

改正内容の概要、対象となる農場は次のとおりです。

## 【改正の概要】

### 1 【基準項目 I - 5】 大規模所有者が講ずる措置

※ 項目の名称が、「通報ルールの作成」から変更されました。

① 家さん舎ごと又は 10 万羽ごとに、「飼養衛生管理者」の配置が必要です。

《 5 鶏舎 39 万羽の配置例 》

家さん舎	飼養衛生管理者	備考
1号舎（14万羽）	A	•「A」は1鶏舎のみ担当可 •「B」、「C」は、他に2万羽未満の鶏の担当が可能 •「D」は合計が10万羽を超えないため、2鶏舎担当可
2号舎（8万羽）	B	
3号舎（8万羽）	C	
4号舎（5万羽）	D	
5号舎（4万羽）	D	

② 発生に備え、次の内容を含んだ「対応計画」の作成が必要です。

農場概要（畜種、羽数、家さん舎数等）／ 埋却地等概要 ／ 農場周辺地図情報  
／ 資材・人員農場内配置図 ／ 家さん舎内動線（農場内動線含む）／ 埋却地の 資材等配置図 ／ 必要資材 ／ 必要人員 ／ 防疫作業手順（農場）／ 防疫作業手順（埋却地等）

### 2 【基準項目 I - 8】 埋却等に備えた措置

※ 項目の名称が、「埋却地の準備」から変更されました。

- 埋却地を自ら確保できない場合は、県と協力して、代替措置の準備に取り組む必要があります。具体的には、自治体が確保した土地や焼却施設等の利用にむけた検討や周辺住民との話し合いが必要となります。

#### 【各項目の対象農場】

○：該当する、－：該当しない

項目	10万羽未満	10万羽～20万羽未満	20万羽以上
• 飼養衛生管理者の配置	－	○	○
• 対応計画の策定	－	－	○
• 埋却等に備えた措置	○	○	○

# 流行前に予防を！ ～牛の感染性下痢～

大家畜課 衛生担当

## 管内で認められた感染性の下痢に關与した病原体

令和元～2年度の2年間に当所の検査により検出された牛下痢の病原体のうち、これからの時期（寒冷期の11～3月）は牛コロナウイルスと牛ロタウイルスが關与する事例が7割以上を占めています。

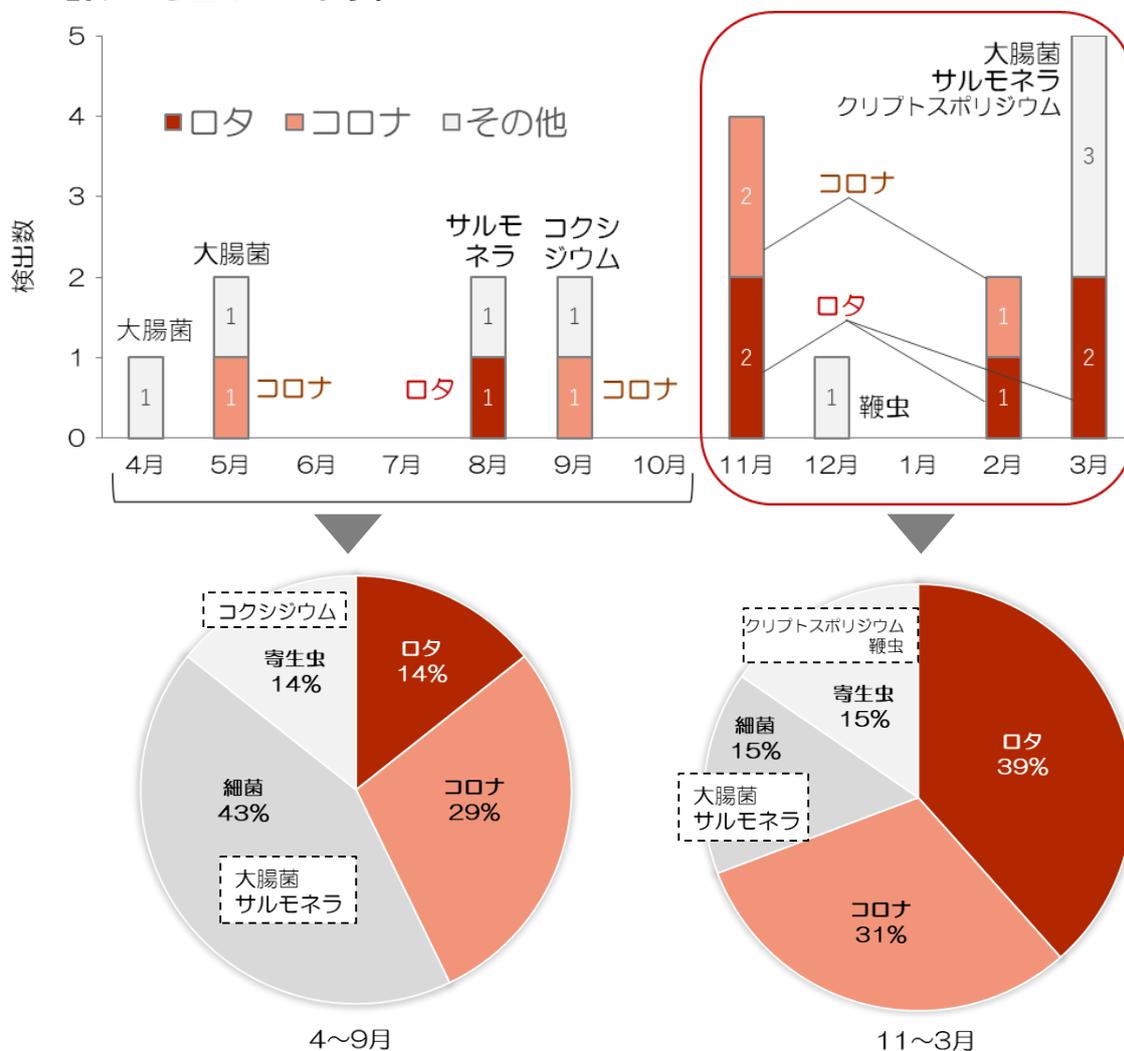


図 下痢の牛から検出された病原体（令和元～2年度、管内）

## 予防法

下痢の一般的な予防対策として、新生子牛への十分な初乳給与、子牛の保温、畜舎の換気と清掃、消毒（出入口の消毒槽設置など）が有効です。また、牛コロナウイルス、牛ロタウイルスと大腸菌の感染による下痢を予防するための下痢5種混合不活化ワクチンが販売されています。本ワクチンは母牛に接種し、その初乳を介して子牛の下痢を予防します。ワクチン接種を希望する方は、かかりつけの獣医師を通じて、岩手県南家畜衛生推進協議会事務局まで連絡をお願いします。（TEL 0197-24-5532）

ワクチン名	対象病原体	価格
牛下痢5種混合不活化ワクチン	牛コロナウイルス 牛ロタウイルス（3株） 大腸菌	2,300円

## 高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生を想定した 防疫対応実地訓練を実施しました

令和3年10月13日、金ケ崎町において（一社）岩手県建設業協会奥州支部による「HPAIの発生を想定した防疫対応実地訓練」が開催されました。

訓練の内容は、HPAI発生時に行われる防疫作業のうち、殺処分家畜や汚染物品を埋却する一連の作業です。埋却溝の掘削、消石灰散布、埋却溝へのブルーシートの敷設、重機によるフレコンバッグ投入、消石灰再散布、覆土等の作業が実施されました。その前後には、作業員を対象に防護服の着脱の訓練も行われました。

同支部では主体となる地区を毎回替えながら訓練を行っています。今回は5回目ということもあり、作業面の安全性が考慮された工夫が随所にみられました。埋却溝に敷設するブルーシートの錘（土嚢）、埋却物の吊り上げ時の金具利用、溝側面への昇降用階段設置等は、今後マニュアルに補足しても良い内容と思われました。

また、実際の場面では、昼夜を問わずに作業が行われることを想定し、薄暮からの作業時に夜間照明を使用し、照明機器の種類や台数について検討しました。今回の掘削規模（幅8m×縦20m×深さ4m）当たり、少なくとも投光器1台とバルーン照明機1台が必要となりそうです。

訓練に参加した県内各地の建設業協会からは、「掘削時には地下の岩盤や水脈を考慮しなければならず、限られた時間内に作業するためにも、埋却候補地を事前に確認しておきたい。」という真剣な意見が多く聞かれました。今後、地域の建設業協会、県土木部と当所が連携した埋却予定地の確認を進めていくことにしています。

当日は終始、降雨の中での訓練となりましたが、万が一に備え、参加者が一連の作業の流れをイメージできたのではないかと思います。【本訓練は（一社）岩手県畜産協会の協賛（家畜防疫衛生対策事業の活用）により実施されました。】



① 埋却溝と設置された昇降用階段



② 埋却物の吊り上げ時に金具を利用



③ 4灯式クワライト（左）とバルーンライト（右）



④クワライトだけでは足元（通路）が暗い

〒023-0003 岩手県奥州市水沢佐倉河字東館 41-1

岩手県県南家畜保健衛生所

Tel 0197-23-3531

Fax 0197-23-3593

岩手県南家畜衛生推進協議会

Tel 0197-24-5532

Fax 0197-23-6988